

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18006	1	後期	選択	2	30
授業科目名 (英文)	コミュニケーション概論 (Introduction to Communication)				
担当教員名	高橋 昌一郎				
授業の概要及び到達目標					
<p>現代の高度情報化社会においては、インターネットやマルチメディアを中心とする文化活動が世界規模で営まれているが、個人に対しては情報に流されて自己を見失う危険性も指摘されている。そのような状況のなかで、いかに自分自身で物事を考え、どのように他者と理性的なコミュニケーションをとればよいのだろうか？</p> <p>改めて「コミュニケーション」とは何かというとなんとなく難しく聞えるかもしれないが、その根底にあるのは「他者理解」、つまり自分以外の人々の考え方や生き方をどのように理解するのかという問題である。ここで大切なのは、意見が違うという結論ではなく、なぜ意見が違ってくるのか、その「理由」を議論することであり、その際に論理性が求められるのである。</p> <p>授業では、現代社会における多彩な論争を題材に、理性的にコミュニケーションする方法のケース・スタディを行う。論理的思考方法と自己表現能力を高め、各自の特性や個性に応じたユニークなコミュニケーション方法の修得を到達目標とする。この授業を通して、就職活動や社会人になってからも有効な方法論を身につけてほしい。</p>					
準備学習等					
授業前には、各授業時にカバーするテキストの問題提起の部分を読んで、自分の意見を考えておいてほしい。					
成績評価の方法	出席および授業参加 50%、授業時試験（教科書参照可）50%の総合評価。				
テキスト	『哲学ディベート』高橋昌一郎著：NHK ブックス（ISBN 978-4-14-091097-9）				
参考図書	『理性の限界』高橋昌一郎著：講談社現代新書（ISBN 978-4-06-287948-4） 『知性の限界』高橋昌一郎著：講談社現代新書（ISBN 978-4-06-288048-0） 『感性の限界』高橋昌一郎著：講談社現代新書（ISBN 978-4-06-288153-1）				
備考	知的好奇心を持って、積極的に授業に臨んでほしい。 オフィスアワーは、授業終了後、教室で質問を受け付ける。 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。				

授 業 計 画

第1回:はじめに:コミュニケーションとは何か?

第2回:道徳Ⅰ:「ディベート」とは何か. 大学生の「恋愛相談」の分析から, 思考のウォーミング・アップを行う.

第3回:道徳Ⅱ:「あなたはなぜ正直なのか」. 一見単純な問に対する多彩な見解を検討し, 「道徳」の意味を考える.

第4回:文化Ⅰ:「命の授業」を容認すべきか. 「命」と「尊厳」とは何か, それを「食べる」とや「教育する」ことの意味を考える.

第5回:文化Ⅱ:「犬食文化」を容認すべきか. 多彩な文化圏の「食文化」の相違から, 「文化相対論」や「文化普遍論」の意味を考える.

第6回:人命Ⅰ:「代理出産」を容認すべきか. 「非配偶者間の体外受精」や「出自」の問題から, 「プライバシー」の意味を考える.

第7回:人命Ⅱ:「ベビービジネス」を容認すべきか. 精子や卵子をオンラインで購入できる現状から, 「生殖倫理」の意味を考える.

第8回:人権Ⅰ:「死刑」を容認すべきか. 人を「罰する」とはどのようなことか, 「応報主義」や「人道主義」の意味を考える.

第9回:人権Ⅱ:「終身刑」を容認すべきか. 仮釈放のない刑罰は必要か, 「予防主義」や「過剰防衛」の意味を考える.

第10回:自由Ⅰ:「メーガン法」を容認すべきか. 犯罪者の「再犯防止」と「社会復帰」の問題から, 「更正」の意味を考える.

第11回:自由Ⅱ:「売春」を容認すべきか. 「援助交際」や「ファッション・タトゥー」の現状から, 「自己決定権」の意味を考える.

第12回:尊厳Ⅰ:「安楽死」を容認すべきか. 「積極的安楽死」と「消極的・間接的安楽死」の相違から, 「QOL」の意味を考える.

第13回:尊厳Ⅱ:「自殺」を容認すべきか. 生の「不条理」と「許される嘘」の問題から, 「パターンリズム」の意味を考える.

第14回:まとめ:コミュニケーションとディベートの有効性

第15回:授業総括・授業評価